

平成28年産水稻の生育状況と今後の対策 (水稻生育診断技術確立調査－6号)

農林総合研究センター
平成28年6月28日調査

気象経過

1. 6月第5半旬の平均気温は、平年に比べ金沢、輪島ともかなり高く（金沢：+1.1℃、輪島：+1.3℃）となった。日照時間は、平年に比べ金沢はかなり少なく、輪島は少なく（金沢：56%、輪島：83%）、降水量は平年に比べ金沢、輪島ともかなり多くなった（金沢：204%、輪島：148%）。
2. 6月24日に新潟地方気象台から発表された、向こう3か月の予報では、この期間の平均気温は、高い確率50%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。
7月は平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

生育概況等

【生育状況】

1. 出穂期
ゆめみづほの出穂期は、加賀地域の平坦部で7月14～16日頃と近年に比べ3～4日程度早く、前年並、加賀地域の山間部では7月22日頃と近年に比べ2日程度早まると予想される。能登地域（羽咋～中能登）では7月16～21日頃と近年に比べ3～6日程度、前年に比べ1～2日程度早まると予想される。
奥能登地域の能登ひかりは、7月18～23日頃と平年および前年に比べ2日程度早まると予想される。
2. 葉齢
コシヒカリの葉齢は、加賀地域で10.9葉（平年10.7葉）、能登地域で10.7葉（平年10.3葉）県平均では10.8葉（平年10.5葉）となっている。
コシヒカリの葉齢展開からみた生育の遅速は、平年に比べ2～4日程度早く、概ね前年並と見込まれる。
なお、加賀地域の圃場や能登地域の生育の早い圃場では幼穂が確認されている（幼穂長0.2～2.0mm）。
3. 草丈
コシヒカリは平年比105%（加賀地域104%、能登地域106%）と平年並、ゆめみづほは近年比109%（加賀地域108%、能登地域112%）と近年に比べ加賀地域はやや長く、能登地域では長くなっている。
但し、葉齢の展開状況から勘案すると、いずれの品種も平年並と考えられる。
4. m²当たり茎数
コシヒカリは、平年比98%（加賀地域98%、能登地域99%）と平年並、ゆめみづほは近年比98%（加賀地域99%、能登地域97%）と近年並となっている。
県下の調査地点の内、コシヒカリの約8割、ゆめみづほは全ての圃場で、最高分けつ期を経過している。
5. 葉色
コシヒカリの葉色は4.0（葉色板値）と低下傾向にあり平年（4.2）と比べやや淡い。

6月28日

m²当たり茎数(平年、前年)及び株当たり茎数

| | 県平均 | 514本 | (平年比 98% | 前年比 100%) | 27.3本/株 |
|-------|-----|------|----------|-----------|---------|
| コシヒカリ | 加賀 | 512本 | (平年比 98% | 前年比 100%) | 28.0本/株 |
| | 能登 | 516本 | (平年比 99% | 前年比 102%) | 26.5本/株 |
| | 県平均 | 555本 | (近年比 98% | 前年比 101%) | 30.9本/株 |
| ゆめみづほ | 加賀 | 566本 | (近年比 99% | 前年比 101%) | 31.8本/株 |
| | 能登 | 527本 | (近年比 97% | 前年比 101%) | 28.8本/株 |

【病害虫の発生状況】

1. 本田におけるいもち病の初発生が確認されており、6月第4半旬以降、感染好適日の出現が多くなっている。
2. 雑草地における斑点米カメムシ類の発生は多く、特にカスミカメムシ類の発生が多い。

3. イネツトムシの発生が散見されている。
4. セジロウンカの初飛来が6月21日に県内4カ所で確認されている。(平年6月28日)

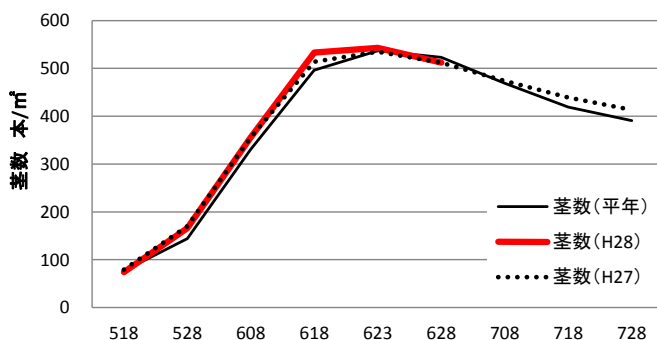
当面の対策

1. ゆめみづほの1回目の穂肥は、着粒数を確保するため、適期である幼穂長1～2mm(出穂23日前)を確認し、遅れずに施用する。葉色が濃いほ場(葉色板値4以上)や茎数が650本/m²を超えているほ場では時期は遅らせず施肥量を減らす。
2回目の穂肥は、葉耳間長±0cm(出穂10日前)とし、遅くとも葉耳間長+2～3cm(出穂7日前)までに基準施肥量を施用する。
2. コシヒカリは、稲体の健全化、弱勢分げつの発生抑制と有効茎歩合の向上を図るため7月第1半旬まで中干しを継続する。
また、5月20日以降の移植ほ場においても、加賀地域では7月第1半旬頃、能登地域では7月第2半旬まで中干しを継続する。
なお、生育が早まっている加賀地域の平坦部では幼穂形成期を迎えるため、中干しは6月末までとし、その後は間断通水により土壌の飽水状態を保つ。
3. 減数分裂期(出穂前15～5日)に19℃以下の低温が予想される場合は、可能な限り深水管理とし、不稔粒の発生防止に努める。
4. コシヒカリの1回目の穂肥施用にあたっては、幼穂長15mm(出穂16～15日前)、葉色板値3.5を確認して行う。ただし、茎数が多く、葉色が濃い圃場では、施用時期を遅らせたり施肥量を減らす。
5. 穂肥施用後は根の機能を保持し、登熟を向上させるため、間断通水により土壌の飽水状態を保つ。
6. 紋枯病の初発が平年より早いため、常発地や前年発生ほ場、茎数の多いほ場では多発する可能性があるため防除を徹底する。粉剤での防除適期は、イネの出穂10～14日前である。
7. いもち病感染好適日の出現が多くなっていることから、いもち病の箱施薬が行われていないほ場、いもち病の常発地及び葉色の濃いほ場を中心に巡回を行ない、葉いもちの早期発見に努め、発生を認めたら直ちに防除を行う。
8. 斑点米カメムシ類の発生が多くなっているため、生息密度を下げるため、引き続き7月上旬まで生息場所である畦畔や農道の除草を徹底する。除草は、集落など地域全体で一斉に実施すると効果が高い。なお、刈り払った雑草は用排水路に入らないように注意する。

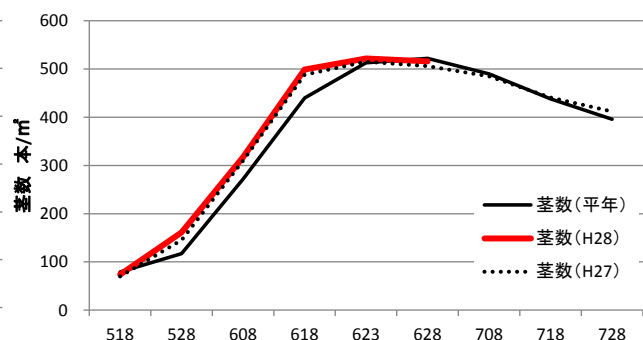
<参考：地域別茎数の推移>

コシヒカリの最高分げつ期は平年に比べ3日程度早い6月25日頃で、前年並となり、本年のm²当たり茎数は平年及び前年並となっている。

茎数の推移(コシヒカリ:加賀地域)



茎数の推移(コシヒカリ:能登地域)

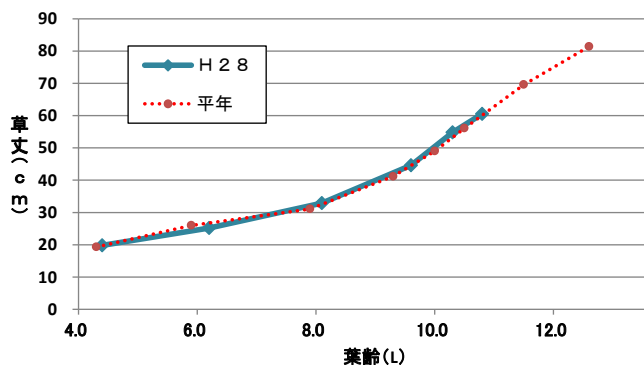


<参考：葉齢における草丈の伸長・茎数の増加>

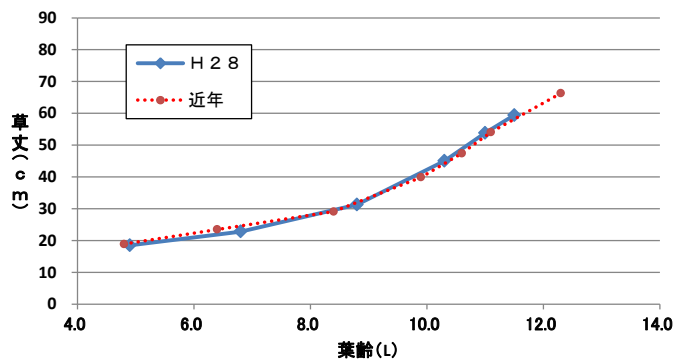
葉齢を基に草丈を平年（近年）と比較すると、コシヒカリは平年並、ゆめみづほは近年並となっている。

同様に茎数では、コシヒカリで平年並、ゆめみづほでは概ね近年並となっている。

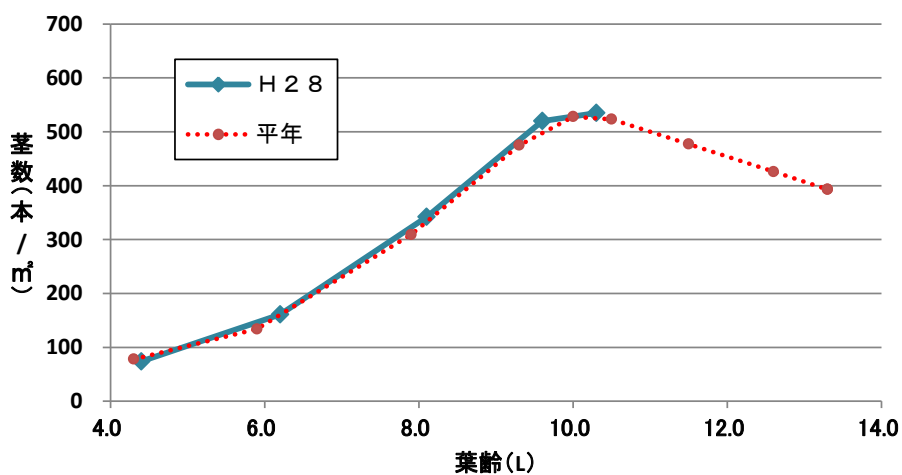
葉齢と草丈(コシヒカリ)



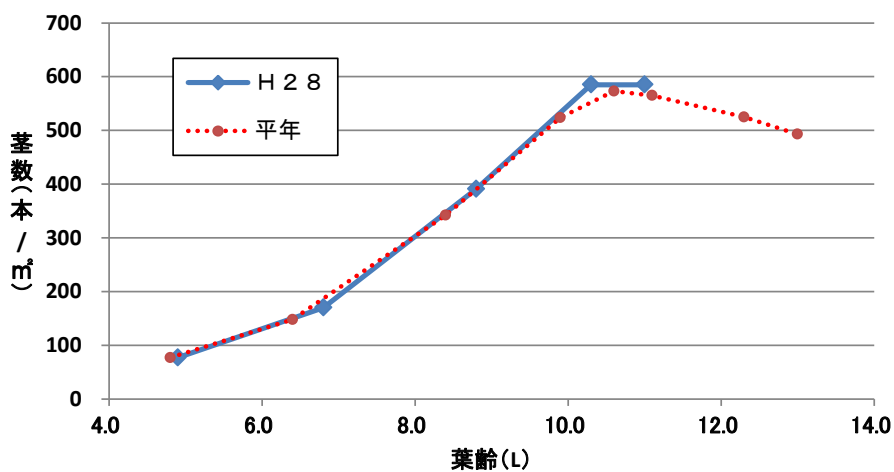
葉齢と草丈(ゆめみづほ)



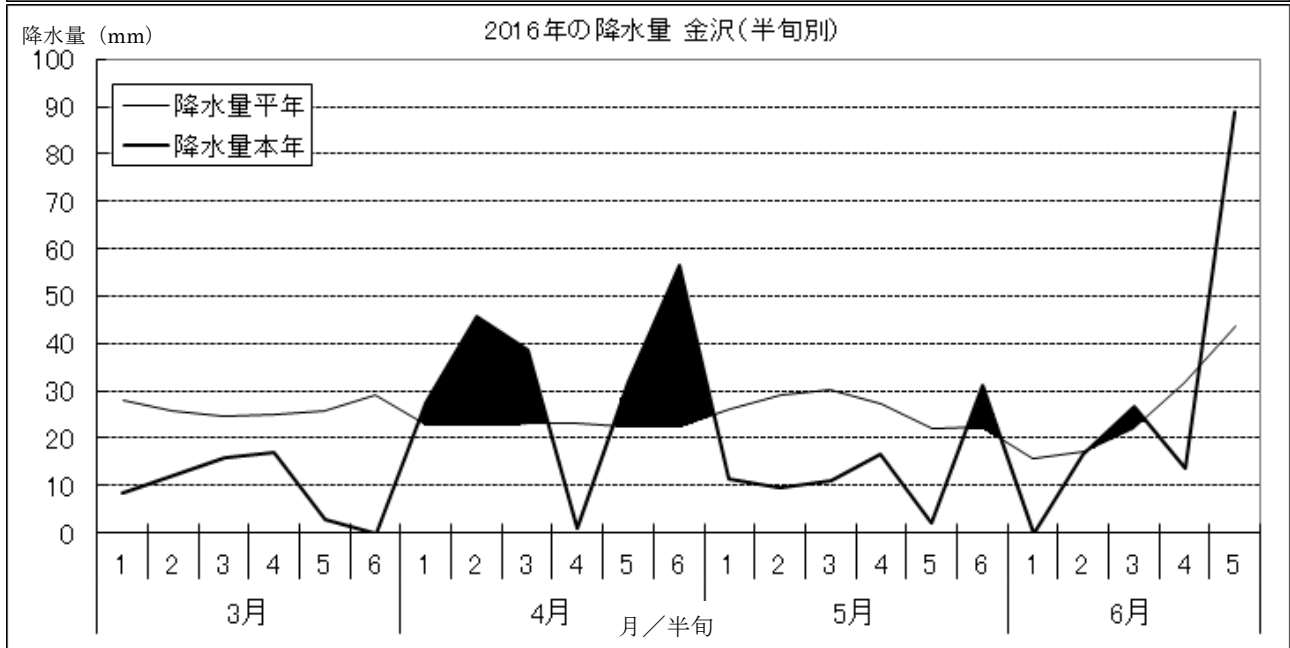
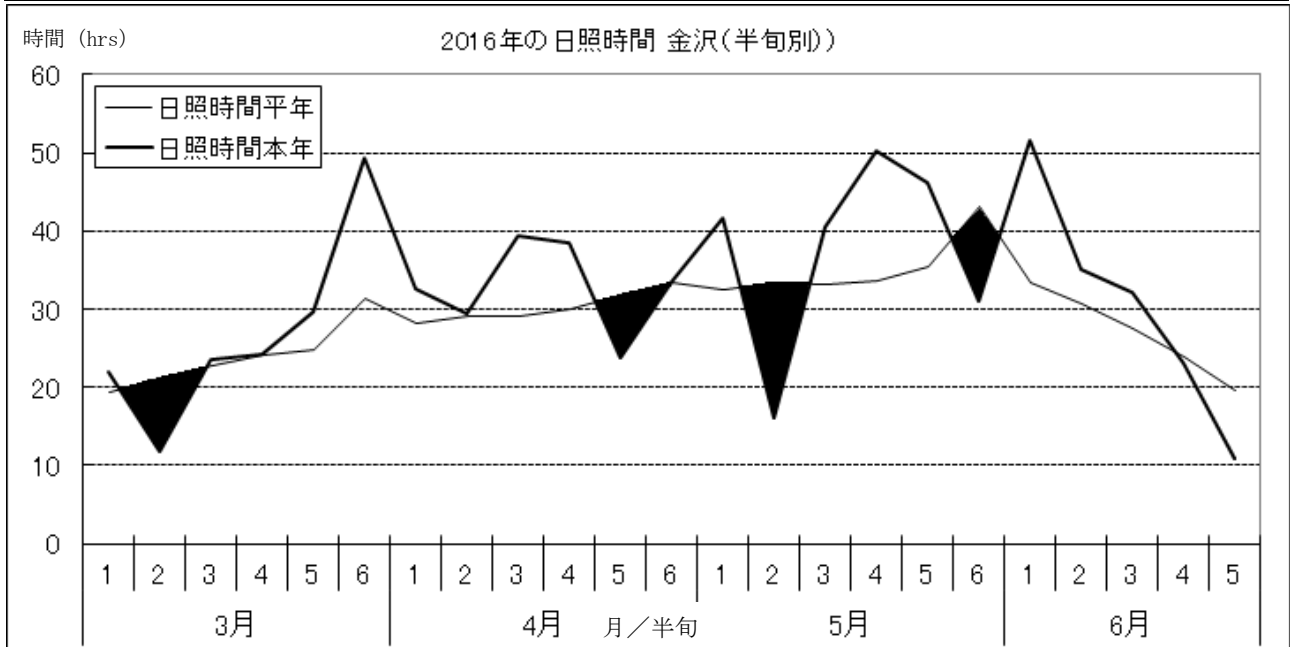
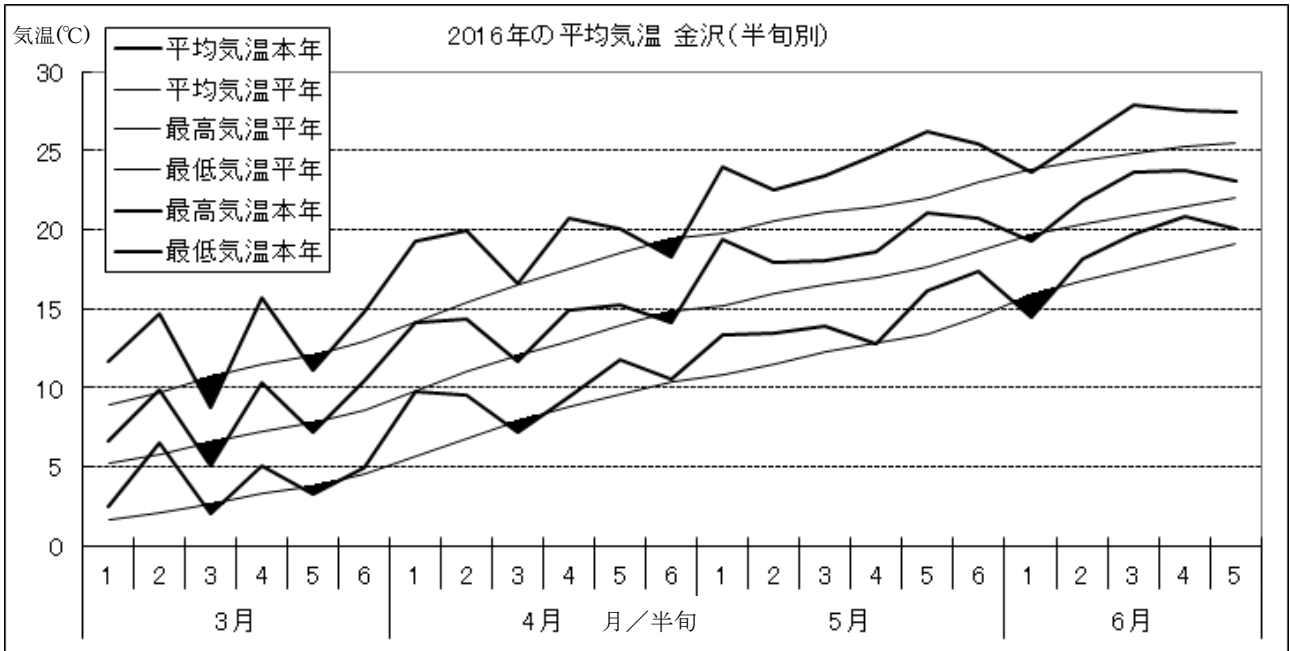
葉齢と茎数(コシヒカリ)



葉齢と茎数(ゆめみづほ)

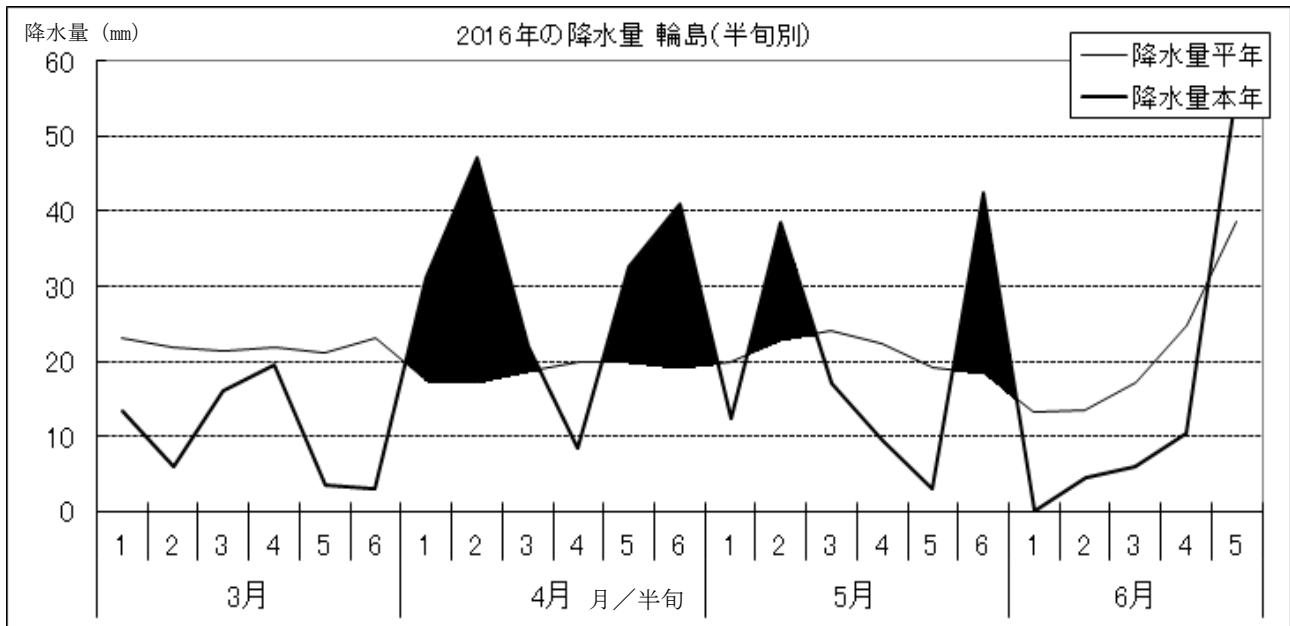
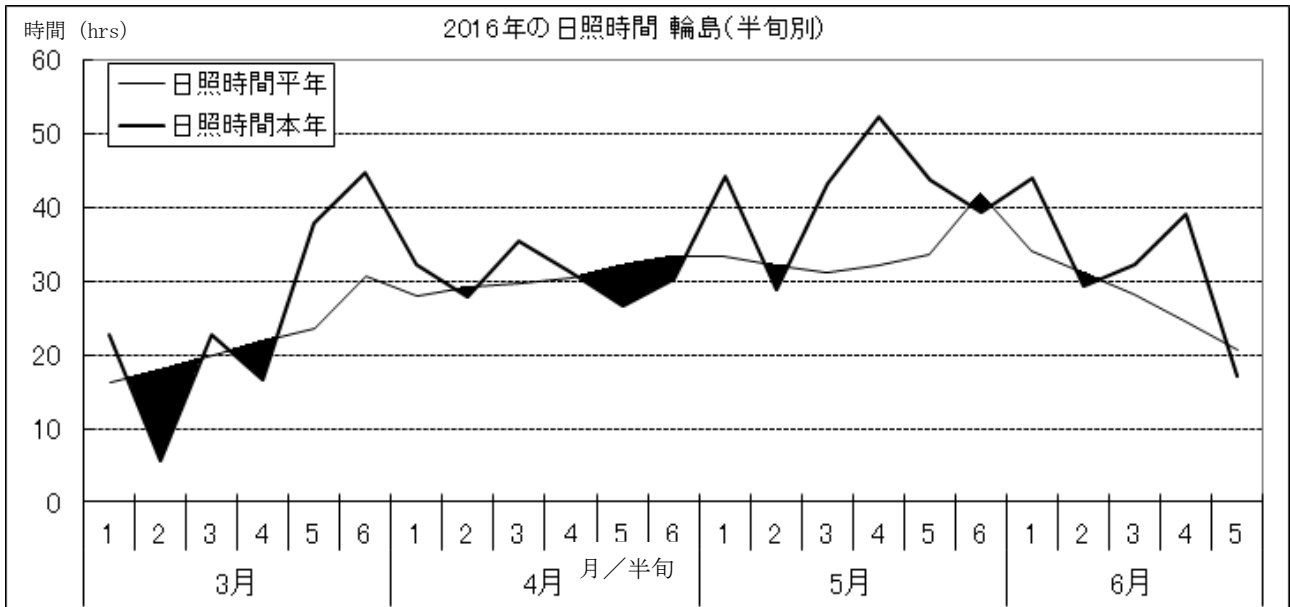
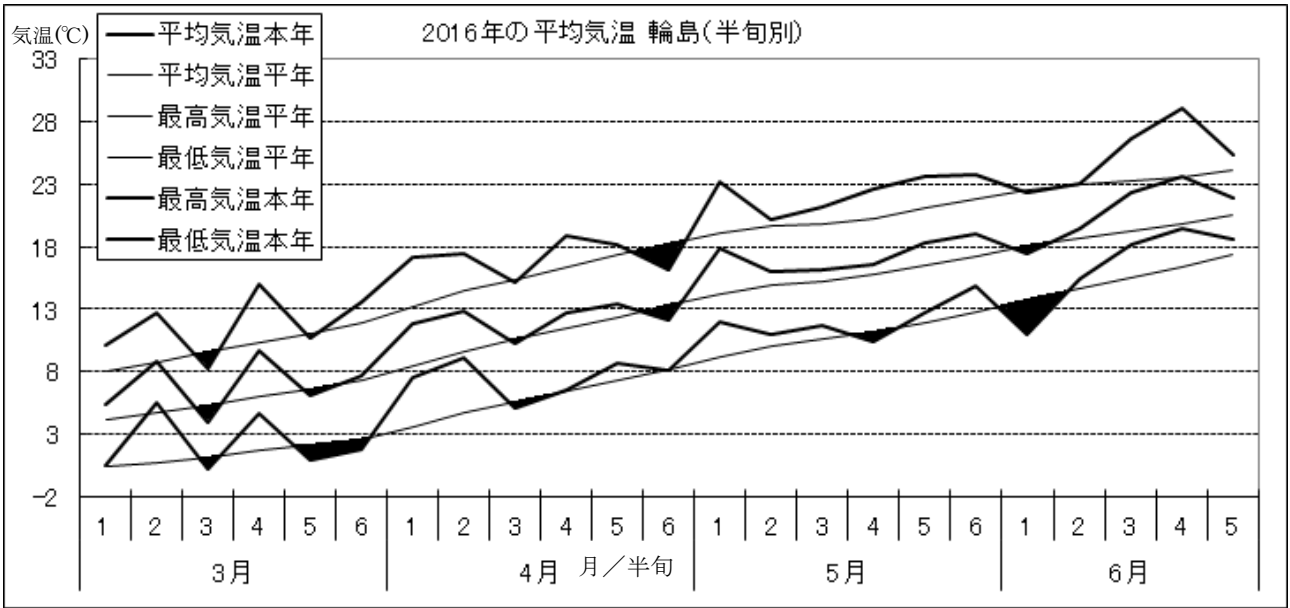


気象経過イメージ (金沢気象台)



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間(昭和56年~平成22年)の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い

気象経過イメージ（金沢気象台）



※金沢気象台観測データを基に石川県農業試験場が作成
 ※平年値は過去30年間（昭和56年～平成22年）の平均値
 ※降水量・日照時間については、1、3、5、7、8、10、12月の第6半旬は、6日間の合計値となるため、他の半旬より値が大きくなる場合が多い